日野原重明記念
「新老人の会」東京 会報
Keep on going!
Vol.6/No.1
2024.1

「新老人の会」全国連絡会・東京集会を終えて
日野原先生の思いを胸に連携の輪を約束

「新老人の会」全国連絡会代表　小山　和作
（熊本「新老人の会」会長）

明けましておめでとうございます。新しい年の始めに「新老人運動」の灯を、さらに大きく掲げましょう。

二〇二三年十一月十八日㈯、ホテル・ルポール麹町にて「新老人の会」全国連絡会の集会が開かれました。新型コロナ騒動もあり、辛うじて昨年は大阪で三木哲郎先生のもとオンライン形式で行われたのですが、今年は是非対面式でお互い顔を見て話し合いましょうということで実現したのでした。東京の皆さんのご努力で実現したことを感謝して紙面を借りてお礼を申したいと思います。

さて、いくつかの欠席の届けはありましたが、十四の団体（会）の参加を得て始めることができました。はじめに、在宅ホスピス研究所パリアン代表の川越厚先生による「ホスピス医がみた日野原重明先生の人生の閉じ方」と題しての講演がありました。日野原先生がご自宅療養中にインタビューをなさったお話は感動的でした。日野原先生の人間的なお悩みも垣間見えながら、偉大な先生らしい人生の閉じ方をされたことは、やがて先生の御許に伺おうという私たちに大きな指針を示していただきました。

続いて、参加の都府県の皆さんでの円卓会議でした。十五時から二時間半の間に各会の活動報告、現状、課題について、前もって提出していた資料を東京の事務局で冊子に纏めてあり、その要点を話していただいたのですが、積年の苦労を五～六分で話せというのが無理かもしれません。一巡してみると二時間近くがたっていました。話の詳細をここで報告できませんが、各々確かに温度差はあるにせよ、異口同音に出た問題点は「高齢化」「会員の減少」でした。現状維持で行こうとすれば当然人は年々加齢が進み、沈滞するのは必定です。

日野原先生が二〇一七年七月十八日にご召天なされて六年、崇高な先生の思想に感銘を受けて集まった我々です。先生の遺された偉大な理念は私たちの魂の中に生き続けています。確かに先生の謦咳に接することができなくなったことで会員が去り、会自体を解散されたところもあります。新型コロナの影響も否定できません。

私たちは普通の高齢者の集団ではありません。会としての目標があります。日本人は外国人に比べて老人に否定的なイメージが強いと言う人がいますが、先生は「歳をとることは素敵なこと」若い時には感じられなかった喜びがあり、命が輝くもの、またそうありたいと事ある毎に話されていました。その為には若者に尊敬される自らの生き方をしていこうと提唱されたのです。更に人の為、世の為に役立とうとの提唱もありました。世界で悲惨な紛争が続いています。先生の究極の願いは世界の平和だったように思います。

先生の遺志を引き継いだ私たち「新老人の会」には多くの課題が山積しています。それは私たちの責務です。先生が示された目標に向かって行動しましょう。具体的な行動目標があってこそ会は前進すると思います。

円卓会議の最後に、来年も必ず集まりましょう、と全員一致して決議しました。十八時から夕食交流会に、そこでは楽しい会話の中に互いに同志の絆を深めていきました。一人も欠けることなく再会しようと約束して、全員記念写真に納まり解散しました。意義深い集まりだったと思います。

円卓会議

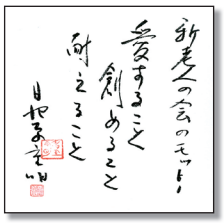
夕食交流会を終えて

報告

講演とコンサートの集い

小松由佳先生 講演会「故郷を失った難民の日々 ～シリア、生きる根を見つめて～」

二〇二三年九月三十日㈯13時30分～16時 ホテル・ルポール麹町 参加者九十五名



小松由佳先生の講演会は、中東問題、特にシリアの難民を通して、遠く離れた国の出来事であっても同じ時代を生きる人々がどのような傷を負っているのかを知ることにより、私たちが今生きている世界を知る機会になりました。

シリアについて 日本の半分ほどの小さな国ですが、国土の八割が砂漠、ユーフラテス川沿いにメソポタミア文化発祥の地。一九四六年に独立するもクーデターが何度か起こり、現在まで六十年近く独裁体制が続いています。

アラブの一家との出会い 二〇〇八年、シリア中部のオアシス都市パルミラで、ラクダの放牧業を営む大家族アブドュルラティーフ一家と知り合いました。一家は十六人兄弟で四世帯七十人近い大所帯です。アラブ人にとって最も大切なものは「家族」であり「どれだけ多くのゆとりをもつか」ということ。「砂漠には全てがある」というアラブの人々の砂漠観に共感しました。

シリアの内戦 始まりは二〇一〇年の北アフリカ諸国を中心とした大規模反体制運動。二〇一一年初め、その動きがシリアにも波及、人々が民主化を求めデモを起こしました。しかし政府軍が武力で弾圧を加えたため、市民も武器をもって応戦、武力衝突が拡大していきました。

同じ頃、アブドュルラティーフ一家の末弟ラドワンがシリア軍に徴兵されました。民主化運動に参加した兄が逮捕されたことや、立場上、市民の弾圧に加わらなければいけなかったことからラドワンは罪悪感に苦しみ、二〇一二年に軍を脱走してヨルダンに逃れ、難民となりました。彼とは二〇一三年にヨルダンで再会し結婚することになりますが、彼を通して難民となる悲しみや迷い、葛藤を知ることになりました。

その後パルミラは、二〇一五年にイスラム過激派組織ＩＳ（アイエス）に占領されたことで、シリア政府軍・ロシア軍による激しい空爆を受け、街の八割が破壊されました。ラドワンの一家もラクダを殺され、家も破壊され、二〇一六年にトルコに避難して、難民となりました。結果、二〇二三年までにシリアでは二二四〇万人の国民中、約五十万人が死亡、多くが難民となりました。

夫ラドワンとの生活 結婚後、日本で暮らし始め、現在七歳と四歳の男の子がいます。私から見た夫は、家事、育児に全く協力しない。金銭的にも、収入よりもゆとりの確保を優先しているので生活は大変。一方、夫の側からは、アラブの女性と比べ料理、家事、育児がいつも手抜き状態！と見ているようです。二人とも自分の文化の側から相手を見ていることに気づきます。日本では「郷にいれば郷に従え」といわれているのに対し、アラブでは「どこに行ってもアラブ人たれ！」と全く相反する考えがあり、日々の生活の中で様々な「事件」が起こります。

中でもカレー事件からの学びは大きかったです。あるお寺に招かれた後の懇親会で、カレーを出していただいたのですが、そこにムスリムが口にできない豚肉が入っていました。夫は「豚肉を食べないのは神様との約束」だからとご飯だけを食べようとしましたが、お坊さんは「出されたものは何でも有り難くいただくのが徳を積むこと」と話しました。この事件を通し、ときに前提が違えば対話が難しいこと、だからこそ理解できないことを理解すること、価値観が違っても同じ場に共存する方法を模索することの大切さを考えました。共生とは、必ずしも相手に近づくことではなく、互いにストレスのない適度な距離を見いだすことでもあると思います。

難民の現状 二〇一五年頃、トルコに避難したシリア難民は「シリアに帰ろう」が合言葉でした。しかしシリアの状況は年々悪化、故郷への帰還は困難な状況が続いています。さらに避難先のトルコでも、コロナ後は物価上昇や差別に苦しみ、多くの難民がヨーロッパに移動して難民としての生活再建を目指しています。年々世界の難民の数は増え続けており、昨年は、世界の人口八十億人のうち一億人にまで達しました。

まとめ シリア難民をめぐる状況は年々厳しくなっています。私たちにできることは、世界で何が起きているのかを「知ること」そして「考え続けていくこと」。私たちは分かりやすい報道に目が行きがちだったり、またメディアも答えをすぐに出そうとする傾向がありますが、分かりにくいことを時間をかけて考えていく姿勢、そして報道されていない一方の世界にも目を向け、そこに様々な人間の苦悩や生き方、歴史があることを認識することが大切だと思います。また、自由に政治的発言ができ、自分らしく生きられる環境があることが、世界的に見ても決して当たり前ではないことを認識することも大切だと思います。平和は、維持する努力をしなければ、いとも簡単に崩れてしまいます。私たちにとって何が平和といえるのか。そのために私たちは何をすべきかを考え、次の世代へ向けて平和を維持することに心を注いでいきたいと思います。

コンサート
植村理一氏と下城瑠五子氏ご夫妻による弦楽二重奏

はじめに植村氏は、「長くヨーロッパで演奏活動をしてきて、さまざまな人種に出会ってきた。当初は日本人としてヨーロッパのオーケストラや室内楽で演奏することはどうなのかと思ったが、向こうでは違った価値観の人が入ることで、可能性が広がるのではないかと理解されている。小松先生もシリアで大変な状況を見て体験されたことと思うが、自分に何ができるか？答えは出ないけれど、考え続けていくことが大切。これからも悩み続けながら、音楽をつくっていきたい」と小松先生の講演に繋げてお話されました。

コンサートは、三十五分という限られた時間でしたが、モーツァルト「デュオ」、ハルヴォルセン「パッサカリア」そして「リベルタンゴ」、アンコールの小曲は、ご夫妻のご子息（十歳）も加わっての演奏。最後は、植村理一氏の「アメイジング・グレイス」のヴィオラ独奏でした。「音楽には言葉では伝えられないものを伝える力がある」日野原先生のお言葉を実感する会でした。

初心者のためのスマホ講座③

デジタル庁デジタル推進委員
伴　克子（東京会員 福岡在住）

みなさん、こんにちは～デジタル推進委員の伴克子です。

QRコード（四角の中になにやら模様があるもの）最近よく見かけますよね。新聞、テレビ、チラシ、街中に溢れています。いつの間にか社会に生活に入り込んで来たQRコードは一体何なのか？どうしてどこでもあるのか？今回のスマホ講座のテーマは『QRコードを知って、使って、お得をゲット』です。

QRコードは、イギリス、中国、フランス、ドイツなど世界中で使われていますが、なんと日本で開発されたものだそうです。QRは「クイックレスポンス」の略です。実はあの四角の中にいろいろな情報が含まれているんですよ。かざしてみた方はおわかりですね。

よく使うのはホームページのリンク、PayPayなどのQRコード決済、LINEの連絡先交換、航空チケットなどですよね。QRコード全体の30％が見えなくても正しい情報を読み取ることができるという優れものです。あの図形の羅列にどう情報が入っているのか不思議ですが、不思議でも便利な機能は使いたい。使ってみたいですよね。Let's try!

新年号のお年玉企画として紙面にあるQRコードを読み取って、アンケートをお送りくださった方の中から抽選で、DVD「日野原重明・講話集」（各54分）を３名様に、トレンドマイクロ社（ウイルスバスターの会社）提供の「スマホの安心安全ガイドブック」を10名様にプレゼントします。

一度もやった事ないって方も是非チャレンジしてください。では、さっそくQRコードを読み取ってみましょう。カメラアプリとLINEでQRコードを読み取る方法をご紹介します。

●カメラアプリの場合

1、ホーム画面からカメラアプリをタップして、起動します。
2、QRコードをスマートフォンの画面に向けて、QRコードが中央に位置するように調整します。
3、カメラがQRコードにピタッと合うと、自動的に読み取ります。URLが表示されるので、そこをタップすると、その情報のページが開きます。

●LINEで読み取る場合

1、ホーム画面のLINEを長押し（アイコンを数秒押さえる）します。図１のような画面になります。
2、QRコードリーダーの場所をタップすると、四隅に白い線がでます。
3、読みたいQRコードを合わせるとURLが表示されます。示されたURLの部分をタップするとその情報のページが開きます。

図１

いかがでしたか？みなさんのチャレンジをお待ちしています。

※QRコードは㈱デンソーウェーブの登録商標です。

誌上句会『トキメキ句会』

選句と鑑賞　飛鳥　蘭

心なし瀬音高まる今朝の秋　弘幸
※瀬音は川の浅瀬の音。せせらぎの僅かな変化に季節の移ろいを捉えた一句。

爽やかや青空を突く竹百幹　寛子
※空の高いこの時期、竹林の勢いが気持ち良く詠まれました。

水澄むや重なり合うて何かゐる　コッコ
※何か生き物がいるようですが。そこは読者の想像力次第、です。

小流れのひいふうみいよお散り紅葉　杏
※細い流れにも散りこんで、周りはさぞかし見事な紅葉だったことでしょう。

赤も黄も緑も青も園小春　夢子
※赤や黄に色づいた木々、松、杉の常緑樹、背景の青空。正に小春日の園ですね。

その向かう青の一天冬紅葉　緑
※一天、に空の深さ大きさが出ています。

鬣梳く馬場のあなたに茶の咲いて　夢里
※作者は乗馬をされるのか。馬の世話をしている目の先に、しっとりと咲く茶の花を見たのです。静と動がバランスよく詠まれました。

藤枯れてくの字しの字の枝残る　花子
※枯れてこそ、藤の特徴が見えてきました。

昴へと旅立たれしかわが青春の歌遺し　康一
※―谷村新司逝く―と前書を付けてもいいですね。文字としては十七に収まっていませんが、言葉を一音節としてみて、十七音節に収める事が出来ます。

【次回のご案内】
締切　3月20日　当季雑詠三句（晩冬～春）
メール投句　viridia@icloud.com 水口緑まで
葉書投句　〒168-0064杉並区永福4-28-24　飛鳥蘭宛
問合せ先　03-3265-1909

日野原重明記念「新老人の会」全国連絡会 東京集会の報告

日時：2023年11月18日（土）13:30 ～ 19:30
会場：ホテル・ルポール麹町
１部：講演（13:30 ～ 14:40）
「ホスピス医がみた日野原重明先生の人生の閉じ方」
川越 厚先生　参加者/76名
２部：円卓会議（15:00 ～ 17:30）
全国各会からの参加/23名、傍聴/10数名
３部：夕食交流会（17:50 ～ 19:30）　参加者/37名

舞台上に、日野原先生の大きな写真とお花を飾り、皆さんとともに日野原先生を思い起こす機会となりました。皆さんが「参加してよかった」と謝意を表してお帰りになりました。内容は次号で報告をさせていただきます。

２部の円卓会議は、全国の14の会から23名が参加。各会の活動状況、問題点などの報告に始まり、後半は共通する問題点について意見交換をしました（巻頭言を参照）。最後に、これをみれば「新老人の会」が分かるという映像データをつくろう、今後も持ち回りでこのような会を開催しよう、と申し合わせをしました。

３部の夕食交流会は、37名の参加。全国から参加の方々と東京の会員が、情報交換し合い、楽しく交流を図ることができました。

５年ぶりの全国的な催しを終えて、日野原先生が描かれた「新老人の会」は、全国的な連携があってこそ、との思いを深くしました。

イベント報告

横浜・金沢文庫散策

金沢文庫は、鎌倉時代中期に北条実時が金沢郷（神奈川県金沢町）に設けた日本最古の武家文庫。平成二年に再建され「神奈川県立金沢文庫」として数々の国宝・文化財が保管されています。

二〇二三年十月二十日㈮十一時、参加者十二名が京急金沢文庫駅に集合。元地元民・端さんの案内で商店街や住宅街を歩くこと二十分で到着。映像を見ながら学芸員さんの説明を受け、展示室へ移動しようとしたその時、何と！現存最古の河内本系『源氏物語』第一帖帚木と第二帖夕顔の写本（名古屋市蓬左文庫所蔵）を展示中とのこと。真っ先に二階へ見に行きました。「金沢文庫所蔵」北条時村による当時の『源氏物語』貸し借りの手紙が一緒にあることに更に感激。

建物を出てトンネルを抜けると「称名寺」の阿字ヶ池には赤い反橋と平橋が青い池に映って美しい。早速、記念撮影。

昼食は「カフェ金澤園」にて。明治期の建築、与謝野晶子や高浜虚子など文豪も愛した料亭で有形文化財に指定されている建物が今春「古民家カフェ」に。ランチ後は「スマホ教室」。初めて参加された方も充実の一日は、細やかに下見し手配してくださった端さんと藤原さんのお陰です。解散後も金沢八景から海を楽しみました。次回は春、さて何方へ参りましょう。

「俳句のすすめ」(七)

飛鳥　蘭

俳句の楽しみとして欠かせないものに吟行があります。簡単に言えば、句作の為に野外を歩くのです。日帰りや泊まり掛けで、俳句仲間数人と地方の名所旧跡を巡ることもあります。

一緒に歩いた中で作った句を出して句会をするのですが、句種を拾うために同じ場所、同じ時間を過ごしても、道端の植物、雲や鳥、建物、土地の歴史、人の様子などなど、心が動いて切り取る場面は人さまざまなので、たとえ句材が重なっても同じ句が出来上がる事は、まずありません。同じ物を見ているので、細かい説明が無くても共有できる事が多いのです。

昨年十一月下旬、福井から金沢へ吟行しました。兼六園では、僅か一時間ほどの間に、霙、霰、雨、のち晴れを経験しました。おまけに雷も。この時期の雷を北陸地方では、鰤起こし、と呼び季語になっています。雨宿りした時雨亭では、大きな窓越しに、雪吊を設る作業工程を見る事ができました。

句は思うようにできなくても、句作りの為の旅は一味違います。句会の一句一句に共有できる旅の思い出が詰まっていて、句を読み返すとその情景が浮かんでくるのです。

「新老人の会」東京

2023年　会員数225人(218件)
2022年　会員数268人(223件)

会員募集中！

年会費

個人・家族会員	5,000円
賛助会員　(一口)	10,000円

編集後記

年のはじめに明るいニュースを探しますが、世界は激動の中にあります。パレスチナ自治区ガザ地区の、人口密集地での爆撃による民間人の犠牲は心が痛みます。一方、ウクライナからも目をはなすことができません。そのようなとき、２・３面の「講演とコンサート」の報告を、ぜひお読みください。小松由佳先生と植村理一氏のお話にありますように、私たちにできることは、世界で何が起きているかを知り、考え続けていくことだと思います。

サークル情報をチラシにして同封します。新たに読書会（日野原先生の著書を読む）を設け、丹田呼吸法は、皆さまのご協力で存続したいと思っています。

■発行所　日野原重明記念「新老人の会」東京　〒102-0082 東京都千代田区一番町29-2 進興ビル４階　電話・FAX：03-3265-1909
Eメール：t.shinrojin@gmail.com　ホームページアカウント：https://shinrojin.com/　■発行人 石清水由紀子　■編集責任者 五百木幸子　■印刷 佐川印刷株式会社